⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の5,718億円の支払超過から、１兆2,122億円の受取超過となった。収入は、前年同期（4,493億円）に比べ、２兆8,399億円増加して３兆2,892億円となった。一方、支出は、前年同期（１兆210億円）に比べ、１兆560億円増加して２兆770億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入3,800億円、支出8,762億円、差引き4,962億円の支払超過であって、前年同期（5,684億円の支払超過）に比べ、722億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入10兆5,000億円、支出10兆7,888億円、差引き2,888億円の支払超過であって、前年同期（5,194億円の支払超過）に比べ、2,306億円支払超過額が減少した。

３　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成23年度第４・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	327,229	210,276	116,953	304,905	201,255	103,650
国債(１年超)	323,393	209,420	113,974	303,992	200,491	103,501
借入金	3,836	856	2,980	913	764	149
国庫短期証券等	1,149,657	1,042,447	107,210	924,729	910,305	14,424
国庫短期証券	1,034,832	927,622	107,210	805,404	790,980	14,424
一時借入金	114,825	114,825	0	119,325	119,325	△ 0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は11兆6,953億円の受取超過であって、前年同期（10兆3,650億円の受取超過）に比べ、１兆3,303億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行32兆3,393億円、償還20兆9,420億円、差引き11兆3,974億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入3,836億円、償還856億円、差引き2,980億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、10兆7,210億円の受取超過であって、前年同期（１兆4,424億円の受取超過）に比べ、９兆2,786億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行103兆4,832億円、償還92兆7,622億円、差引き10兆7,210億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆4,825億円、償還11兆4,825億円、差引き０億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支）(A)+(B)
一般会計	△ 77,468	△ 92,589	△ 170,057
特別会計等	5,929	170,300	176,229
財政投融資	39,677	6,803	46,480
社会資本整備事業	△ 4,962	9,578	4,616
外国為替資金	12,122	9,408	21,530
保険	△ 2,888	3,399	511
その他	△ 38,020	141,112	103,092
小計	△ 71,539	77,711	6,172
国債等	116,953	△ 16,116	100,838
国債(１年超)	113,974	△ 16,002	97,972
借入金	2,980	△ 114	2,866
国庫短期証券等	107,210	△ 61,595	45,615
国庫短期証券	107,210	△ 72,974	34,236
一時借入金	0	11,379	11,379
合計	152,624	—	152,624
調整項目	△ 653	—	△ 653
総計	151,971	—	151,971

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成23年度第４・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 89,382	△ 29,731
特別会計の債券売・買(△)	△ 26,168	15,028
財政投融資	△ 31,780	3,640
国債整理基金	5,612	11,388
その他	△ 39,728	△ 35,751
計	△ 155,279	△ 50,454

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、15兆5,279億円の支払超過であって、前年同期（５兆454億円の支払超過）に比べ、10兆4,825億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達３兆311億円、資金返済11兆9,694億円、差引き８兆9,382億円の支払超過であって、前年同期（２兆9,731億円の支払超過）に比べ、５兆9,651億円支払超過額が増加した。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、前年同期の１兆5,028億円の受取超過から、２兆6,168億円の支払超過となった。財政投融資は、前年同期の3,640億円の受取超過から、３兆1,780億円の支払超過となった。国債整理基金は、5,612億円の受取超過であって、前年同期（１兆1,388億円の受取超過）に比べ、5,776億円受取超過額が減少した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、３兆9,728億円の支払超過であって、前年同期（３兆5,751億円の支払超過）に比べ、3,978億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（15兆1,971億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（653億円の支払超過）を除いた収支は、15兆2,624億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、15兆5,279億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（２兆1,006億円）に比べ、2,655億円減少して１兆8,351億円となった。